



TITLE:

米洲行日誌(3)

AUTHOR(S):

山本, 一清

CITATION:

山本, 一清. 米洲行日誌(3). 天界 1937, 17(196): 375-379

ISSUE DATE:

1937-07-25

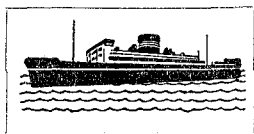
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167522>

RIGHT:

米 洲 行 日 誌 (3)

山 本 一 清



4月18日(日曜日) 例によつて晴れ、殆んど無風。

今朝10時まで室内で荷造りやら整頓。それから長田、高木兩氏に見送られ、20哩の道を「ロスアングレス港」即ちサンピドロまでドライヴし、港の岸壁に着いてゐた樂洋丸に乗つた。他にも幾人か乗つた客はあつたが、誰もテープを引く者もなく、ごくアツサリと正午に出帆する。室は6號室で優遇して貰ふには有難い。船は國の延長なので、出帆後、直ちに京都の宅と、ノルエ1丸組と、大洋丸の山室女史とへ電報して、用事と挨拶とをすます。

4月19日(月曜日) 晴れ、波無し。正午の船の位置、西經116°02′、北緯29°27′、昨日より航走280哩。ロスアングレス港より280哩、マンザニョ港へ925哩。氣壓761.2托、氣温20°、水温15°C、風NW。

午前中、又、日食終了後の旅行計畫に時間を費す。どうも、パナマからニウヨークに向ふ便船の無いのが無い。やむなくば、パナマ迄はノルエ1丸、それから先きはグレイス會社船とすると決める。

夕刻、左舷に Cerros 島の山々を見る。又、18時半には右舷に北上する船を一つ見た。

4月20日(火曜日) 晴れ。正午の船の位置、西經113°12′、北緯25°26′、昨日より航走291哩。ロスアングレス港より574哩、マンザニョ港へ631哩。氣壓759.0托、氣温18°、水温16°C、風NW。

船は荷物を可なり澤山積んでゐるらしいが、乗客は少い。1、2等は日本人7人ばかり、其の他は支那人や歐米人で、船内では日本語、支那語、英語、スペイン語、フランス語等々、いろいろの言葉が入り亂れてゐる。

午前中、米人 A. Walser 氏と話す。氏は旅行家で、今は夫人同伴でバルパライソに行かれるといふ。氏の話しに、ニウヨーク行きには、グレイス線の船は高價で、割合に駄目。むしろチリ國の船が良からうとの意見である。

午後、左舷にサンラザロ岬や、有名なマグダレナ灣あたりを見る。又、夜

21時半過ぎから右舷に久しぶりで南十字星座を見た。いよいよ南洋へ近づきつゝある。

4月21日(水曜日) 晴れ微風。正午の船の位置は西經 $109^{\circ}14'$ 、北緯 $22^{\circ}15'$ 、昨日より航走291浬。ロスアンゲレス港より865浬、マンザニヨ港へ340浬。氣壓757.7托、氣溫 23° 、水温 20°C 、風 NW。

朝から左舷にはメキシコ國內の下カリフオニヤ洲の Miraflores 山其他の山々が見える。午後から夕刻にかけてマグロ群や、飛魚の群等が盛んに船から見える。日没は美しかつたが、低雲のため緑閃光は見えなかつた。19時半から、船の後甲板で映畫を見た。客が少いので、1等から3等まで皆一所で、



(カリフオニヤの一驛)

甚だ面白かつた。3等には支那から送還されるメキシコ系の少年少女が30人ばかり乗つてゐる。

京都やノルエト丸から電報が來た。何れも落石局中繼で、3—4時間かゝつてゐる。日本と日本船との間の電報料が安いので、大助かりである。

4月22日(木曜日) 晴れ。正午の船の位置は西經 $105^{\circ}19'$ 、北緯 $19^{\circ}29'$ 、昨日より航走276浬。ロスアンゲレス港より1141浬、マンザニヨ港へ64浬。氣壓757.7托、氣溫 24° 、水温 25°C 、風 N。

朝4時に眼をさまし、空を見たら、センタウル座ア星が低く輝いてゐた。今日はメキシコのマンザニヨ港に着くので、或は上陸が出来るかも知れないと思ひ、いろいろの文書をあさつてメキシコの地理等を研究した。港が近いので、右舷には昨夜以來屢々船が見えるし、又左舷にはメキシコの山々が近い。

17時40分マンザニョに投錨した。かなり良い港らしいが、浅いためか、船は港内に入らない。商船と軍艦とが一つづつ碇泊してゐる。陸に汽車やカテドラルや、其の他大小の家々が見えてゐるが、人口2, 3000の市らしい。——ペル1行きの飛行郵便や、日本行きの郵便を多く發信した。

4月23日(金曜日) 晴れ。

船はマンザニョ港内に碇を下したまゝ、終日積荷を下してゐる。結局1400トンの荷を下すので、小舟が不足してゐるため、中々はかどらない。人夫は、これで比較的勤勉に働いてゐるのだといふ。

船の甲板から双眼鏡で陸を眺めると、ステーションや、寺院や、倉庫などのほかは、誠に貧弱な家が小山の上にも下にも僅かに見えてゐるばかり。乗り合ひの米人 A. Walser 氏は“此んな町の間人は、只、毎日、ねることゝ、食ふることだけしてゐるに過ぎない。そして皆ピストルを持つてゐる”と言ふ。誰も上陸して見ない。日没後には南十字星が山の上に現はれる。

4月24日(土曜日) 晴れ。

今日も船は荷を下してゐる。“正午出帆”といふ掲示が朝から出てゐるが、正午は愚か、夕食後にも尚ほクレーンは忙しく動いてゐる。漸く22時過ぎになつて、下すべき荷は皆下りたらしい。22時20分、愈々船は長い汽笛の音を残して出帆した。碇泊中ウンザリしたので、やはり大洋上の航走の心地良さが感じられる。

4月25日(日曜日) 晴曇。正午の船の位置、西經102°11′, 北緯17°32′, マンザニョ港より158哩, バルボア港へ1567哩。氣壓757.9耗, 氣溫水溫共に 26°, 風は SW。

左舷には絶えずメキシコの山々が見える。暑くなつて來たので、船では今日から水泳のためのプールを作る。朝食後、ワルサー氏と暫く雑談した中に、氏はドイツの政治を賞め、米國には勞働者の横暴から、共產主義の革命が起る危険があると言つてゐる。

日本や、ノルウェー丸と盛んに無線交信をする。

4月26日(月曜日) 晴曇。正午の船の位置、西經97°46′, 北緯15°21′, 昨日よりの航走287哩。マンザニョ港より445哩, バルボア港へ1280哩。氣壓756.7耗, 氣溫31°, 水溫29°C, 風は西で、追手だから特に暑く感じる。

やはり左舷にメキシコの山々を見ながら航走する。波は穏かで、只、僅か

なウネリがあるばかり。鯨が見えたり、魚群が見えたり、一つ二つ北上する船が見えたり。

4月27日(火曜日) 晴れ。マンザニヨ 出港以來、空はもやがかり、地平が特にひどくて、星が見えにくい。パナマが近いためだろう。正午の船の位置は、西經 $93^{\circ}27'$ 、北緯 $13^{\circ}32'$ 、昨日よりの航走 274 哩。マンザニヨ港より 719 哩、バルボア港へ 1006 哩。氣壓 757.2 耗、氣溫 30° 、水温 29° 、風は東。

今日の正午に太陽がホゞ天頂にやつて來た。明日からは北側にまわる。船ではそろそろペル 1 上陸客の準備が始まる。自分も指紋を取られたが、之れが現代式の調査法といふものか!? お晝前にボーイが一同におスシを持つて來た。やはり日本の船である。暑い夜風に吹かれつゝ、食後、後甲板上で活動映畫の催しがあつた。陸は遠くて見えない。

4月28日(水曜日) 晴れ。正午の船の位置、西經 $89^{\circ}27'$ 、北緯 $11^{\circ}39'$ 、昨日よりの航走 260 哩。マンザニヨ港より 979 哩、バルボア港へ 746 哩。バルボアに着時刻の都合上、船はスピードを落したらしい。氣壓 757.4 耗、氣溫 31° 、水温 29°C 、無風。

朝食前、スキスの人々と、チリやアルゼンチンあたりの旅行費用等について話した。アルゼンチンは今まで聽いてゐた程に物價は高くないらしいが、弗はホゞ日本の 90 錢ぐらゐ。チリのペソは 10 錢以下だといふ。

終日、暑さが甚だしい。パ 1 ラ 1 で書類整理。夕食後、ワルサ 1 氏に日本の話などする。氏は日本へ近いうちに来るつもりらしい。第 6 號室が暑いので、今夜から自分は第 11 號室に眠る。

4月29日 天長節 (木曜日) 晴れ。正午の船の位置、西經 $85^{\circ}46'$ 、北緯 $9^{\circ}27'$ 、昨日よりの航走 254 哩。マンザニヨ港より 1233 哩、バルボア港へ 492 哩。氣壓 756.9 耗、氣溫 30° 、水温 28°C 、風は S。

赤道にダンドン近づくので、朝スコールがあつた。10時から船員も船客も一同は 1 等遊歩甲板上に集まつて、船長司式の下に天長節遙拜式を行つた。最敬禮、“君が代” 2 唱、最敬禮といふ順序で、嚴肅に行つた。式後、自分は一英人の求めにより“君ケ代”の歌詞を英譯した。即ち、

May Our King's Reign be
For a thousand years!
Or, through all the years!
Until little pebbles become
Large rocks and moss grown.

正午に此の歌詞はタイプにして船内1, 2等客に配布された。夕食には日本人と支那人とだけに、特別な日本料理の御馳走があつた。

ノルエ1丸から受電。昨日ロスアンゲレスに入港した由。又、サラベリ港には寄らない筈だといふ。夜、南十字星座や、センタウル座が南の水平上に高い。今日から左舷には又陸が見える。

4月30日(金曜日) 晴れ。スコールが時々やつて来るが、空中の濛氣は消え、空中は透明である。正午の船の位置、西經 82°02′, 北緯 7°16′, 昨日よりの航走257哩。マンザニコ港より1490哩、バルボア港へ235哩。氣壓757.9托, 氣温27°, 水温 28°C, 風は SE。

太陽が北へまわつたので、もはや南風が涼しくなつて來た。朝からパナマ國のコイバ島あたりの島々や、行き交ふ船などが見える。

午前中、甲板上で福島氏と語る。氏は恰もペル1國リマ市の帝國公使館へ赴任する人である。今夜、歐文の1, 2等船客名簿を配布されたが、それによると、客は41名、内、日本人は8名である。

瀬戸黃道光觀測所から

初夏の黃道光がむやみに明るく、緊張をつゞけました。かうなりますと天體觀測地としては理想的としみじみおもひます。内外の星の友からの通信にはげまされてゐます。回報はひきつゞき10號出しました。新しいことも考へられてゐます。地方農産に重大關係ある蘭草(疊表)收穫にあたり天候豫報を手傳ふことになりました。これは村民諸君への奉仕。花山と同じやうに、山の上はこれからの夕涼みに好適。(荒木健兒)



觀 象 偶 感

神戸關守畔 改發香塢

雨 散 雲 消 夜 色 奢。	好 看 茫 濛 九 天 華。
黃 紅 青 白 光 千 態。	大 小 暗 明 形 萬 差。
時 達 去 來 惟 永 劫。	空 間 有 限 又 無 涯。
鏡 頭 興 味 何 多 趣。	一 閃 流 星 掠 樹 斜。

博 一 榮